

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
令和3年度研究開発実施報告書

「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム
(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)」
「地域とつくる「どこでもドア」型ハイブリッド・ケア
ネットワーク」

近藤 尚己
(京都大学 大学院医学研究科 教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名.....	2
2. 研究開発実施の具体的内容.....	2
2 - 1. 研究開発目標.....	2
2 - 2. 実施内容・結果.....	4
2 - 3. 会議等の活動.....	9
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況.....	10
4. 研究開発実施体制.....	10
5. 研究開発実施者.....	11
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など.....	12
6 - 1. シンポジウム等.....	12
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など.....	12
6 - 3. 論文発表.....	13
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）.....	13
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等.....	13
6 - 6. 知財出願.....	13

1. 研究開発プロジェクト名

地域とつくる「どこでもドア」型ハイブリッド・ケアネットワーク

2. 研究開発実施の具体的内容

2 - 1. 研究開発目標

長引くコロナ禍が子どもや若者、女性へ及ぼす影響について様々なデータで示唆されているが、そのメカニズムは十分明らかになっていない。また、支援ニーズが増大するなか“三密”回避要請により支援者間の情報共有や連携が困難となり相談支援の現場負荷が高まっている。一方、急激に広がったオンラインでのコミュニケーション技術の広がり新たな機会となっている。

コロナ禍に関わらず、支援対象者の特徴の把握や支援プラン策定は、支援者の経験とスキルに大部分が委ねられており、経験の浅い支援者等を支援する必要がある。申請者らは、生活保護受給者の生活歴と医療扶助レセプトのデータを機械学習で解析して受給者をタイプ分けして、各タイプに適した支援プランを提案する「支援者支援データシステム」を開発し、福祉事務所へ実装を始めた。しかし若年層の分析と結果の実装は未達成である。

そこで、①コロナ禍が若年層に及ぼす社会的孤立・孤独や健康への影響についての現象理解を量的・質的に進める。また、分析で得た知見を踏まえ、②若年層版の「支援者支援データシステム」を構築、③別途開発してきた「住民主体の共生型地域づくり普及支援ガイド（事業評価ガイド）」をアップデートして、地域住民を含む顔が見える社会資源マップを接続し、現場とオンラインの両面で活用可能で、どの支援の入口（ドア）から入っても多様な支援者につながり包摂される「どこでもドア」型ハイブリッド・ケアコミュニティのモデルを構築する。

(1) スモールスタート期間終了時

まず、福祉事務所の生活保護受給者データやインターネット調査データ、名古屋市子ども・若者総合相談センターの相談者データを用いて、子どもと若年女性が社会的孤立・孤独に至るメカニズムを量的・質的に明らかにする。新型コロナウイルス感染症流行下特有の現象とそうではない普遍的な特徴をとらえる。

また、これまで開発した成人・高齢の生活保護受給者データを用いて開発してきたペルソナ分析アルゴリズムをもとに、子どもと若年女性を対象としたペルソナ像分析をする。

名古屋と京都それぞれのフィールドでは、主要な支援団体等が「どこでもドア」モデル構築を目的とする事業評価ガイドに基づく活動の振り返り、「顔が見える関係性のネットワーク」の充実とそれを可視化した「社会資源マップ」の作成ワークショップを実施する。また、関係者間のコミュニケーションをオンラインでも可能とするシステムの仕様を検討して、その技術的課題・倫理的課題の洗い出しと解決法を検討する。

ペルソナ像分析の結果と、京都・名古屋の両フィールドでの質的分析に基づき関係者との協議を進め、福祉事務所のデータで抽出されたペルソナ像クラスタごとに、有効な支援策を複数提案する。支援プラン案とペルソナ像とのマッチング案、各支援者ネットワーク内での議論をすすめる。

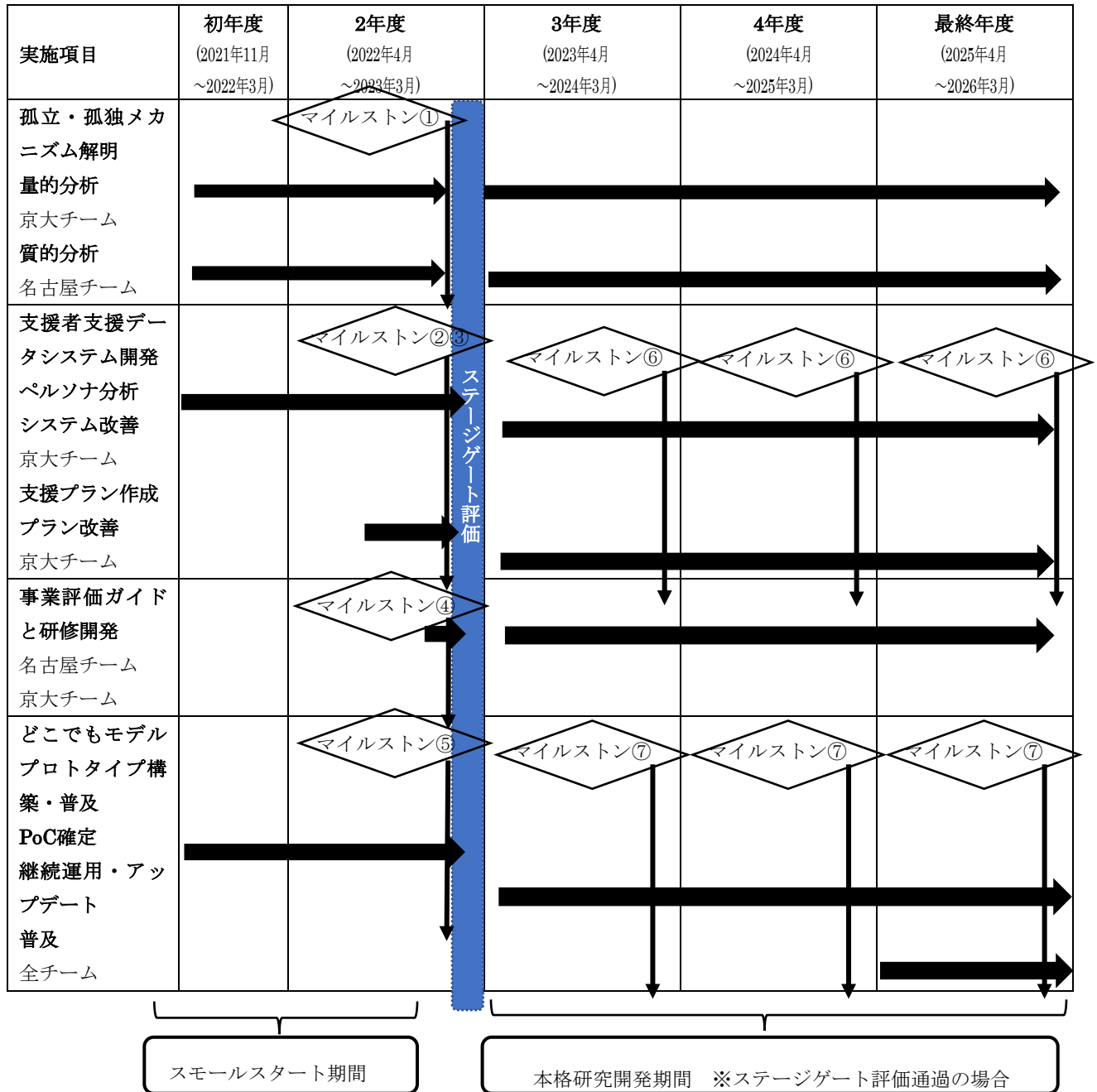
これらより、「どこでもドア」モデルの仕様を決定する。

(2) 本格研究開発期間終了時

本格実装期間中は、福祉事務所・名古屋市・KYOTO SCOPEの3フィールドでの運用を進め、「どこでもドア」モデルの各要素の充実と改善を図る。また、他地域展開に向けた課題を洗い出し、可能であれば期間中に他の2～3地域への普及を目指す。

2 - 2. 実施内容・結果

(1) スケジュール



(2) 各実施内容

項目1: 孤立・孤独のメカニズム解明

【今年度の到達点①】子どもと若年成人男女が社会的孤立・孤独に至るリスク要因とメカニズムの質的・量的分析のデータ整備を行う

実施項目①-1：研究倫理審査で承認を取得する

実施内容：京都大学大学院の研究倫理審査で承認を得た。
期間：令和3年11月～令和4年3月31日
実施者：近藤尚己（京都大学大学院医学研究科・教授）

実施項目①-2：生活保護受給者への追加質問紙調査の実施

実施内容：協力が得られた福祉事務所を通じて、生活保護受給者への追加の質問紙調査（生活歴アンケート）を実施し、北日本コンピューター株式会社の協力を得て収集し、データ構築を進めた。
期間：令和3年12月～令和4年3月31日
実施者：西岡大輔（大阪医科薬科大学・助教）、近藤尚己（京都大学大学院医学研究科・教授）

実施項目①-3：インターネット調査のデータクリーニング

実施内容：新型コロナウイルス感染症流行の影響の評価のための全国インターネット調査 JACSIS および 2021 年に国内の妊産婦とパートナーの男女を対象として追加調査（JACSIS 妊産婦・パートナー調査）から得られた調査データのクリーニング、データセットの構築を行った。
期間：令和3年12月～令和4年3月31日
実施者：荒川裕貴（京都大学大学院医学研究科・特別研究学生）、田淵貴大（大阪国際がんセンター・部長補佐）、近藤尚己（京都大学大学院医学研究科・教授）

実施項目①-4：名古屋市子ども・若者総合相談センターのデータ取得・初期加工

実施内容：名古屋市子ども・若者総合相談センターの2013年以降の相談者の概況がわかる情報提供を受け、相談者像の分類や「社会的孤立・孤独」の意味、その捉え方、重視する評価項目を実務者と研究者で検討のうえ、まず相談者の概要を整理した。また、ひとまず支援記録システム上で管理されている2020年4月以降の本人情報とアクション記録等の情報提供を受け、時系列データベースを構築した。
期間：令和3年11月～令和4年3月31日
実施者：堀田聡子（慶應義塾大学大学院・教授）、西田佳史（東京工業大学大学院・教授）

項目2：支援者支援データシステム（子ども・若者・若年女性版）開発

【今年度の到達点②】支援者支援データシステム構築に向けたペルソナ分析のデータ整備を行う

実施項目②-1：福祉事務所データを用いた分析データ構築

実施内容：確率的潜在意味分析（Probabilistic latent semantic analysis: PLSA）・ベイジアンネットワーク分析及び決定木分析をはじめとした機械学習で社会的孤立・孤独を引き起こしやすいそれぞれの集団の特徴を明らかにするために、福祉事務所データから、18歳未満の子ども、18歳未満の子どもを養育している子育て世帯、40歳未満の若年男女のデータを抽出し、分析用デー

タセットの構築を行った。

期間：令和4年1月～令和4年3月31日

実施者：近藤尚己（京都大学大学院医学研究科・教授）、西岡大輔（大阪医科薬科大学・助教）、木野志保（京都大学大学院医学研究科・SPD研究員）、上野恵子（京都大学大学院医学研究科・博士課程大学院生）

項目3：「どこでもドア」モデル事業評価ガイド作成と研修の開発

本年度実施なし

項目4：「どこでもドア」モデルプロトタイプの構築と仕様決定

【今年度の到達点③】「どこでもドア」モデルプロトタイプの構築に向けての調査・会議を実施する

実施項目③-1：支援者支援データシステムの子ども・若者・女性版構築に向けた相談

実施内容：「支援者支援データシステム」の子ども・若者・女性版を複数の福祉事務所に提供するサービスの仕様決定やスケジュール等の調整について、事業者（北日本コンピューターサービス株式会社）との定例会議を開催した。福祉事務所の関係者との会議については、同社による複数自治体のヒアリングに加え、本プロジェクト担当の研究者ら（西岡・近藤・上野・木野）が、神奈川県横須賀市、山口県山口市では対面で、京都府京都市、大分県大分市、長崎県松浦市とはオンラインで、生活保護受給者等生活困窮世帯への支援状況、コロナ禍に関連すると思われる女性や子どもに関する相談内容の変化等について聞き取りを行った。

被保護者健康管理支援事業への本プロジェクトの成果導入の可能性について、厚生労働省社会・援護局保護課と相談の機会を設けた。その際、子どもや女性を含む被保護者の生活状況に関して、被保護者から収集する標準調査項目を選定するための事業の推進などを提案した。現在（2022年4月）、同様の内容の社会福祉推進事業の公募が行われている。

期間：令和3年12月～令和4年3月31日

実施者：西岡大輔（大阪医科薬科大学・助教）、木野志保（京都大学大学院医学研究科・SPD研究員）、上野恵子（京都大学大学院医学研究科・博士課程大学院生）、近藤尚己（京都大学大学院医学研究科・教授）

実施項目③-2：KYOTO SCOPE参加者へのヒアリングと意見交換

実施内容：KYOTO SCOPEの参加者を対象に、支援者間のオンラインコミュニケーションツールの仕様についてヒアリングし、今後の方向性について意見交換をした。

期間：令和3年12月～令和4年3月31日

実施者：池田裕美枝（京都大学大学院医学研究科・博士課程大学院生）、中野恵子（畿央大学・助手）、日吉和子（大和大学・教授）、荒木智子（大阪行岡医療大学・助教）

(3) 成果

項目1：孤立・孤独のメカニズム解明

【今年度の到達点①】 子どもと若年成人男女が社会的孤立・孤独に至るリスク要因とメカニズムの質的・量的分析のデータ整備を行う。

実施項目①-1：研究倫理審査で承認を取得する

成果：京都大学大学院の研究倫理審査で承認を得た。

実施項目①-2：生活保護受給者への追加質問紙調査の実施

成果：埼玉県飯能市から追加質問紙調査（生活歴アンケート）を含めた生活保護受給者のデータ（基本管理データは4,476名、そのうち生活歴アンケートは169名）を入手した。収集上の課題として、①福祉事務所の生活保護業務が多忙であるため、生活歴アンケートの収集に積極的でない福祉事務所がある、②健康支援担当者が他部署へ異動し、健康支援担当者が変更になった福祉事務所が多く、生活歴アンケートの収集の協力を得るために担当者への説明に時間を要していることが挙げられ、今後の収集のための工夫ポイントについての示唆が得られた。

実施項目①-3：インターネット調査のデータクリーニング

成果：新型コロナウイルス感染症流行の影響の評価のための全国インターネット調査 JACSIS および 2021 年に国内の妊産婦とパートナーの男女を対象として追加調査 (JACSIS 妊産婦・パートナー調査) から得られた調査データのクリーニング、データセットの構築を行った。1,000 名分の妊産婦のデータが得られた。

実施項目①-4：名古屋市子ども・若者総合相談センターのデータ取得・初期加工

成果：名古屋市子ども・若者総合相談センターの2013年以降の相談者の概況がわかる情報提供を受け、相談者の概要を整理した。また、支援記録システム上で管理されている2020年4月以降の本人情報とアクション記録等の情報提供を受け、実務担当者との検討を重ね、状況数理技術の適用に向け、本人の状態と支援の内容・活用した社会資源に関するデータベース化を開始した。なお、2020年度及び2021年度（4月1日から8月31日）に草の根ささえあいプロジェクトに相談があった方の実人数と延べ相談件数は、621人、18,034件（2020年度）、229人、8,661件（2021年度）であった。

項目2：支援者支援データシステム（子ども・若者・若年女性版）開発

【今年度の到達点②】 支援者支援データシステム構築に向けたペルソナ分析のデータ整備を行う

実施項目②-1：福祉事務所データを用いた分析データ構築

成果：埼玉県飯能市の福祉事務所から提供された、18歳未満の子ども、18歳未満の子どもを養育している子育て世帯、40歳未満の若年男女のデータを含む計4,476人分の情報を抽出し、分析用データセットが得られた。提供されたデータ一式には、生活保護受給者の個人情報だけでなく、生活保護利用世帯の情報（最低生活費、住居区分など）や医療扶助データ（傷病名、外来受診、入院など）も含まれており、これらのデータも分析に利用できることを見出した。

項目3:「どこでもドア」モデル事業評価ガイド作成と研修の開発

本年度実施なし

項目4:「どこでもドア」モデルプロトタイプ構築と仕様決定

【今年度の到達点③】「どこでもドア」モデルプロトタイプ構築に向けての調査・会議を実施する

実施項目③-1: 支援者支援データシステムの子ども・若者・女性版構築に向けた相談

成果:「支援者支援データシステム」の子ども・若者・女性版を複数の福祉事務所に提供するサービスの仕様決定やスケジュール等の調整について、事業者(北日本コンピューターサービス株式会社)と毎月定例会議を開催した。生活保護受給者への生活歴アンケートの収集情報について密に連絡を取り合うことができた。また、複数の福祉事務所への意見聴取も行った。名古屋市子ども・若者総合相談センターとは定期的な会議を行い、支援記録データのクリーニング、コミュニティの社会資源の活用状況、コロナ禍に関する支援ニーズや支援の現状の変化等について状況把握や支援システムのニーズについての情報が得られ、また、開発物やその応用法、普及法のイメージの共有ができた。

実施項目③-2: KYOTO SCOPE 参加者へのヒアリングと意見交換

成果:京都市内の困窮女性支援機関5箇所に対し支援者間のオンラインコミュニケーションツールの仕様についてヒアリングし、今後の方向性について意見交換した。抽出された課題として、以下3点が挙げられた:①支援機関ごとに個人情報の扱い方が異なる。施設内のみでしか相談者の情報を扱えない規約の機関もあれば、個々の支援者が様々なSNSツールを用いて24時間支援者とやり取りしている機関もある。②支援者ごとに日常業務でのインターネットツールへの触れ方の程度が異なる。LINEは比較的多くの支援者が個人利用で使用している。③支援者ごとに、他機関の支援者との連携には差があるものの、総じて、他の支援者がどのように支援しているのかには興味があり、オンラインコミュニケーションツールへのニーズはある。

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

京都グループ、名古屋グループとも支援者との意見交換を通じて、次年度以降の本プロジェクトを遂行していく上で有用なフィードバックを得ることができた。令和3年度のプロジェクト達成目標に対する進捗はおおむね計画通りである。令和4年度に向けての課題として、京都グループは生活保護受給者の生活歴アンケートのデータ数の確保のために協力していただける福祉事務所を増やすことが挙げられる。これについては、全国の顧客自治体リストから、参画している研究者との連携実績がある自治体(特に、研究代表者がコアメンバーを務める日本老年学的評価研究(JAGES)の参加自治体)を選び出し、優先的に協力依頼を進めている。名古屋グループは、相談記録データの仕様やその分析方法について、予定通り引き続き検討を進めている。

2 - 3. 会議等の活動

京都グループ

年月日	名称	場所	概要
2021/12/27	北コン京大合同会議	オンライン (Zoom)	生活歴アンケートの収集状況、健康管理支援事業の動向
2022/01/25	北コン京大合同会議	オンライン (Zoom)	生活歴アンケートの収集状況
2022/02/22	北コン京大合同会議	オンライン (Zoom)	生活歴アンケートの収集状況
2022/03/31	北コン京大合同会議	オンライン (Zoom)	生活歴アンケートの収集状況、健康管理支援事業の動向
2021/11/20	KYOTO SCOPE オンラインケース勉強会	オンライン (Zoom)	「自認する性のトイレに行けず膀胱炎に」のケースを他職種で議論
2021/12/27	KYOTO SCOPE 会議	オンライン (Zoom)	支援者ヒアリング内容の共有とオンラインツールへの意見交換
2022/01/17	KYOTO SCOPE 会議	オンライン (Zoom)	勉強会打ち合わせと支援者ヒアリング継続の計画立案
2022/02/13	KYOTO SCOPE オンラインケース勉強会	オンライン (Zoom)	「救急受診後、入院したトランスジェンダー女性」のケースを他職種で議論

名古屋グループ

年月日	名称	場所	概要
2021/11/09	実務者合同会議	オンライン (Zoom)	社会資源の可視化・DB化の方法
2021/11/22	実務者合同会議	オンライン (Zoom)	支援記録システムの情報提供の範囲や取扱い
2021/12/10	実務者合同会議	オンライン (Zoom)	支援内容検討の方向性
2021/12/23	実務者合同会議	オンライン (Zoom)	支援内容検討の方向性、DB化の内容
2022/01/18	実務者合同会議	オンライン (Zoom)	重層的支援体制整備事業とDB化の内容
2022/02/24	実務者合同会議	オンライン (Zoom)	DB化の内容

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

現時点（令和3年3月31日）で、各研究成果の現場での試行的な利用、社会実験の取り組みは行っていない。本事業開始前からの実績に基づき、3つの各フィールドでの取り組みは進めており、本プロジェクトで意見交換した情報や支援ノウハウの実装は各自が進めている。例えば、名古屋グループのフィールドでの社会資源マップを、京都グループのフィールド（福祉事務所・KYOTO SCOPE）での応用可能性について、フィールド担当者との相談の場で意見交換をした。

4. 研究開発実施体制

（1）マネジメント体制

①京都グループ（研究代表者が率いるグループ）

プロジェクトの統括、研究者と現場との連絡調整や会議設定等によるマネジメントを担う。福祉事務所から提供されるデータを計量分析し、支援対象者のペルソナ像のパターン（クラスタ）を描出する。支援プランの導出アルゴリズムを作成する。福祉事務所への「どこでもドア」モデル実装を指揮する。また、KYOTO SCOPEでの諸活動を行う。

②名古屋グループ

研究代表者と堀田が緊密に連携のうえ、堀田が名古屋グループ内での連絡調整や会議設定等によるマネジメントを担う。

（2）グループごとの概要

京都グループ（グループリーダー：近藤尚己）

京都大学大学院医学研究科

- ・社会的孤独・孤立メカニズム解明、ペルソナ像分析&支援プラン提案システム開発
- ・「どこでもドア」モデル構築・普及：福祉事務所、データシステム事業者とで協議しながら近藤・木野・上野・西岡でモデルのコンセプト完成、福祉事務所への実装と普及を進める。池田・中野・日吉・荒木はKYOTO SCOPEでの機能、研究知の実装を進める。

名古屋グループ（グループリーダー：堀田聡子）

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科、東京工業大学工学院機械系、認定特定非営利活動法人日本ファンディング協会、一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト

- ト、特定非営利活動法人起業支援ネット、名古屋市子ども・若者総合相談センター
- ・名古屋市子ども・若者総合相談センターの相談者に対する支援経過のデータ分析に基づく社会的孤独・孤立メカニズム解明（令和3年度）、支援者支援ツールセットの作成（令和4年度以降）
 - ・「どこでもドア」モデルプロトタイプの構築と、「どこでもドア」モデル対応への事業評価ガイドの更新（令和4年度）
 - ・事業評価ガイド、社会資源マップづくり、できることもちよりワークショップ等を組み合わせた「どこでもドア」モデル研修の開発（令和4年度以降）
 - ・ガイドの公開とこれに基づく知見を収集するプラットフォーム構築、研修ファシリテーター養成等を通じた「どこでもドア」モデル構築・普及（令和4年度以降）

5. 研究開発実施者

京都グループ（リーダー氏名：近藤 尚己）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
近藤 尚己	コンドウ ナオキ	京都大学	大学院医学研究科	教授
西岡 大輔	ニシオカ ダイスケ	大阪医科薬科大学	研究支援センター医療統計室	助教
木野 志保	キノ シホ	京都大学	大学院医学研究科	JSPS SPD研究員
上野 恵子	ウエノ ケイコ	京都大学	大学院医学研究科	博士課程大学院生
池田 裕美枝	イケダ ユミエ	京都大学	大学院医学研究科	博士課程大学院生
荒川 裕貴	アラカワ ユウキ	京都大学	大学院医学研究科	特別研究学生
田淵 貴大	タブチ タカヒロ	大阪国際がんセンター	がん対策センター疫学統計部	部長補佐
中野 慶子	ナカノ ケイコ	畿央大学	健康科学部看護医療学科	助手
日吉 和子	ヒヨシ カズコ	大和大学	保健医療学部	教授

荒木 智子	アラキ トモコ	大阪行岡医療大学	医療学部理学療法学科	助教
-------	---------	----------	------------	----

名古屋グループ（リーダー氏名：堀田 聡子）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
堀田 聡子	ホッタ サトコ	慶應義塾大学	大学院健康マネジメント研究科	教授
西田 佳史	ニシダ ヨシフミ	東京工業大学	工学院機械系	教授
鴨崎 貴泰	カモザキ ヨシヒロ	認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会	-	常務理事
渡辺 ゆりか	ワタナベ ユリカ	一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト	-	代表理事
鈴木 直也	スズキ ナオヤ	特定非営利活動法人起業支援ネット	-	副代表理事

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
	なし				

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

- ・ 「KYOTO SCOPE メールマガジン 第2号」、KYOTO SCOPE、KYOTO SCOPE、2022年1月18日

(2) ウェブメディアの開設・運営

- ・ 該当なし

(3) 学会（6-4. 参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

（関連する社会実装業績：近藤 尚己）

2021-現在 内閣官房の「孤独・孤立対策の重点計画」策定のための有識者会議の委

員として「孤独・孤立対策の重点計画」策定に関与。同計画は2021年12月末に公表された。

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (0 件)

●国内誌 (0 件)

●国際誌 (0 件)

(2) 査読なし (0 件)

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 2 件、国際会議 0 件)

1. 近藤尚己 (京都大学大学院医学研究科)、社会疫学から疫学の未来を展望する。
第32回日本疫学会学術総会、オンライン開催、2022年1月27日
2. 近藤尚己 (京都大学大学院医学研究科)、コロナ禍の健康格差解消の実践とこれからの課題～ヘルスサービスと地域の現場から～ パネルディスカッション、第6回 J-HPH カンファレンス 2021、オンライン開催、2021年11月13日

(2) 口頭発表 (国内会議 1 件、国際会議 0 件)

1. 中野慶子 (畿央大学健康科学部看護医療学科)、日吉和子 (和大学保健医療学部看護学科)、荒木智子 (大阪行岡医療大学医療学部理学療法学科)、社会的孤立女性への支援の困難に関する質的分析、第41回日本看護科学学会学術集会、愛知県、2021年12月4日

(3) ポスター発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

6-5. 新聞/TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (1 件)

1. 近藤尚己 (京都大学大学院医学研究科)、SDGs 達成に欠かすことができない社会的孤立・孤独問題の解決にむけて」つくばサイエンスニュース、2021年12月

(2) 受賞 (0 件)

(3) その他 (0 件)

6-6. 知財出願

(1) 国内出願 (0 件)

(2) 海外出願 (0 件)